

笑顔があふれるお米

結城中学校 一年 橋本 陽奈

私は、やっぱりご飯が好きだ。パンや麺も食べるけど、一番は何といってもご飯だ。それは昔からずいとも変わらな。かめばかむほど甘い味がじわじわと広がっていくところがご飯の良いところ。そんな、ご飯が大好きな私とご飯について話していきたい。

まず、家のご飯について。私が二歳の頃の話をもが話してくれた。朝起きると、第一声

2

がおはようではなく、「ママ、ご飯」だったという。それはそれは大変で、すぐに白いご飯が出てこないで大騒ぎをしたそう。母の格闘が目に見える。おはようは二番手だ。その当時の私の好物は、煮物、大根のお味噌汁など。た和食をほぼ毎日食べていたそう。ご飯を始めとする和食に、ここまで大きくしてもらったと言っても過言ではない。

今は、もちもちしている食べ物が好きだ。そのキ、かけは、毎年一月一日に食べるお雑

3

煮だ。おばあちゃんの家が集まってお雑煮を
いとこたちと一緒に食べる。皆、沢山おかわ
りをする。出汁ともちが絡まって、本当に美
味しい。年末には、おばあちゃんが大きくて
平たいもちを二枚から三枚、私達家族に作っ
てくれる。それを一年かからず、すぐに食べ
終えてしまうのだ。私の家族は、もちが本当
に好きだ。カレーが余った時に作るカレーも
ちドリアも楽しみの一つになっている。

私の住んでいる地域でも、二月頃にもちつ

4

き大会が開かれる。白や杵を使った本格的な
ものだ。私もやらせてもらった事がある。つ
き終わると、おばさん達が熱いうちにちぎっ
ていく。すると、みるみるうちに色々な種類
のもちが杵の上にせいぞろい。もちろん我が
家は、家族全員で参加だ。そこには見たこと
のないもちが沢山あって面白い。私は全部好
きだが、特に、あんこもちがお気に入りだ。
真白のもちが様々な色に変化していく様子
に初めて参加した時は驚き、わくわくした。

次に、キャンプのゴ飯について。私が六年
 生までは、土曜日と日曜日にキャンプに行く
 ことが多かった。その時のゴ飯は、炊飯器で
 炊くよりも、何倍も美味しかった。つやつや
 で、もちもちしていて、ほかほかのゴ飯が出
 来上がる。おこげが出来た時は、ぱりぱりで
 最高に美味しい。よく作るミネストローネと
 一緒に食べると、更に味が引き出されて、お
 米一粒一粒が美味しくなる。次の日の朝、鍋
 にチーズとゴ飯を入れて、リゾットにして、
 食べる。ゴ飯は、色々なメニューに変化する。
 その人の好みに合わせて、どんな料理にでも
 なる。自由自在の食べ物だ。

私の家のお米は、親戚のおじさんが作っ
 ているお米だ。私のおじいちゃんも手伝いに行
 っている。お米を作る大変さは、おじいちゃ
 んが教えてくれた。特に、人手が欲しい時期
 が田植えと稲刈りだ。五月頃にする田植えは
 田植え機を使うがすみの方は、手で植えてい
 る。八月頃にする稲刈りは、コンバインを使

て刈り取っているが穂先のもみを取り乾燥させ、もみすりをして玄米にする。暑い時期にする作業なのでとても大変だ。私のお母さんはい、小さい頃に私のおじいちゃんから「お百姓さんが一生懸命作ったお米だから、茶碗の米は、一粒残さず食べるんだよ。」と教わったそうだ。私も小さい頃におじいちゃんに同じことを言われた。だから私もお米を一粒残さず食べている。ただご飯が美味しいと頂くのと、作ってくれた人の大変さを知ってから頂くのとは、美味しさが違うと思う。

考えてみれば、お米を通して沢山の人の関わり、美味しいご飯があると会話が弾んでコミュニケーションを取っている事に気づく。十三歳になつた今、自分で少しずつ料理が出来るようになった。今までご飯を烹して笑顔にしておもらっていたように、これからは、私が美味しいご飯を炊いて、皆を笑顔にしてあげたい。そして、いつも感謝の気持ちをお忘れずに「いただきます。」と、言いたい。